

元気のである 同和教育をめざして

同和教育の推進や人権啓発をしている
村島祐子^{むらしまゆうこ}人権教育推進員（国府町）に、

地域でのさまざまな取り組みのようすを交えて、お話を伺いました。
私たちもいっしょに、同和教育について考えてみましょう。

さまざまな取り組みをご紹介します

各集落で行われている小地域学習会



参加者の声

とても話しやすく、温かい雰囲気でした。差別落書きをなくしていくために、こういう会で

しっかり学習していくことだと思います。

第22回人権啓発国府町女性集会

参加者の声

初めて参加しました。交流という意味、意義がわかったような気がしました。せっかくの素晴らしい活動、来年は周りの人をたくさん連れてきます。



高齢者を対象とした万葉学校 平和を願って、色紙づくり



同和教育推進仲間づくり講座

交流を通し、語り合い、気づき合いながらの講座



こういった学びの場の一つ一つが、部落問題やさまざまな人権問題の解決につながっていくと考えて、地道な取り組みをていねいに繰り返し行うことを大切にしています。

問い合わせ先

市役所第2庁舎人権・同和教育課 ☎ (0857) 20-3376

「はい、人権教育推進員です！」

学びの場での出会いを通じて、「どうして…?」、「もっと知りたい!」と人権問題について興味や関心、問題意識を持ち、「あっそうか」、「やってみよう」と元気や勇氣、自信がわいてくる、そういう場面をつくることができたときには、とてもうれしく思います。また、そのことが私自身の新たな元気のもとになっています。

村島さんにとって人権啓発、同和教育とは何ですか？

「まちづくり、人づくり」です。それは、だれもが安心して生きられるまちづくり、互に関わり合い、補い合い、ともに生きていこうとする人づくりです。

このとき考えたいのですが、ともに生きるとはだれとだれのことでしょうか。人とはだれのことでしょうか。私たちは、ともに生きている人たちのことをどれだけ知っているのでしょうか。そこにあなたや、そして私はいるのでしょうか。「そこに私がない」と訴える人に、あなたは何と答えますか。

私たちは、「人権は大切だ」と言いながら、知らないことや、知らされていないことがなんと多いことか。そして、伝えてきたのか…。

なぜ同和教育が必要なのですか？

自分の人権は、自分以外の人によって守られ（保たれ）ているからです。それは、私が大切にされたいと思っても、相手が私を大切だと思わなければ私は大切にされないということです。ところが、私たちはよほど意識しなければ、人を傷つけても、人に傷つけられても、人が傷ついていても、気づかないままです。

だからこそ「ともに生きるまち」をつくっていくために、私たちは自分以外の人のことについて、そして自分のことについて、互いにその大切さを学ばなければならない。そのことを教えてくれたのは、同和教育だったと私は思っています。

あなたの周りで、人権について語り合うことが特別なことでなくなり、「この街って結構いいよね」って言い合えたらすてきじゃないですか。



村島祐子さん